トルコ共和国から防災視察団が来県

～ 岩手県の防災に関する勉強会を開催 ～

砂 防 災 害 課

平成22年4月13日（火）、トルコ共和国の防災視察団44人が県庁を訪れ、12階講堂で、平成20年岩手・宮城内陸地震の対応などについての勉強会が開催されました。

視察団のメンバーは、アンカラ市のベイセル・ダルマズ中央知事を団長に、市長が16名、副市長が3名、国の機関である住宅機構の社長・役員が17名などでした。

勉強会では、達増知事からの歓迎の挨拶の後、総合防災室越野危機管理監から、「岩手県の防災について」と題して、岩手・宮城内陸地震の被害や対応状況について総括的な説明と、津波など本県の特徴的な災害の紹介があり、続いて、平井県土整備部長から、「岩手・宮城内陸地震災害とその対策」と題して、地震での公共土木施設被害の様子やその復旧状況、災害復旧制度の仕組み、天然ダムなどの土砂災害対策の概要などの紹介を行いました。

地震国でもあるトルコ防災視察団の皆さんは、集中して説明に耳を傾け、講演の後には、「被災した住宅への補助は」、「祭畤大橋が崩壊したのは設計のミスなのか」、「災害時の初動で、行政はどう動くか」など、予定時間を超過するほど熱心な意見交換が続きました。

続いて一行は、一関市厳美町祭畤地区を訪れ、落橋した一般国道342号祭畤大橋の被災現場で一関土木センターの菊池所長の案内により現場を見学した後、盛岡に戻り、達増知事、平井県土整備部長などを交えた交歓会に参加し、その後、いわて花巻空港を利用して大坂に向かいました。

講演する平井県土整備部長

トルコ共和国防災視察団一行

＜トルコと日本＞

明治20年(1887年)、日本の皇室の訪土の答礼として、トルコ皇帝は650人の使節団を乗せた軍艦エルトゥールル号を日本に派遣した。1890年6月使節団は横浜港に到着し、パシャ提督は明治天皇に謁見した。帰路に着いた9月、エルトゥールル号は紀州沖で台風に遭遇し、座礁沈没した。提督以下587人が死亡するという海難事故であったが、付近の住民の献身的な救助活動により69名が救出された。痛ましい事故であったが、日本の官民挙げての対応は当時のトルコ国民の心を打ち、トルコの小学校教科書にも載るなど両国の友好の原点になったとされる。今年はその事件からちょうど120年に当たり、「トルコにおける日本年」となっている。